



▲松本誠一さん「沢山のひととの出会いは、人生の大きな1ページであり、感謝の気持ちでいっぱいです」

「町史編纂を通して、地方の時代の到来を予感。岩代の豊かな自然が一番の宝物だと思えます」
〜松本誠一さん

旧岩代町時代に町史編纂係長として町史全四巻の完成に尽力し、現在は二本松市文化財保護審議会会長を務める松本誠一さんを訪問。当時のエピソードや苦心談をはじめ、松本さんが改めて感じる岩代の魅力や未来への展望をうかがいました。

かわら版

いわしる

集落支援員だより



Q 当時の心境や思い出は？

岩代町職員として働いていた当時、町史編纂の責任者として任命されたことは、まさに晴天の霹靂でした。「歴史に詳しくもない自分かなぜ？」と狐につままれたような気持ちでした。当初は途方に



Q 完成後のエピソードは？

町史全四巻の完成まで、実に暮れましたが、歴史に詳しい先生や県職員の方の紹介を受け、福島大学の故小林清治先生を監修者に迎えられたことで動き出すことができました。先生の推薦する歴史家十六名に執筆していただくことになり、町史づくりに希望が見えてきたのです。様々な障害や苦労もありました。古文書が読めないために、自宅で深夜まで古文書辞典を片手に格闘しました。多忙で筆が進まない先生を駆って待つ自宅へ送迎し、原稿が上がるまで待つという押しかけ生活を一カ月続けたこともありです。

松本さんに聞いてみました 岩代町史の特徴とは？

松本さんに岩代町史1〜4巻の特徴や魅力を分かりやすく解説していただきました。

- ★「岩代町史1巻」(通史)
- ★「岩代町史2巻」(原始・古代・中世・近世)
- ★「岩代町史3巻」(近代・現代)
- ★「岩代町史4巻」(民俗・旧町村沿革)

「岩代町史は4巻、3巻、2巻、1巻の順に刊行されました。4巻は小浜、新殿、旭、太田など旧町村の歴史をはじめ、生活習慣や伝統的な年中行事がまとめられています。3巻、2巻はどちらも資料編となり、読み解くのは難解ですが、貴重な文書が集められています。最後に完成した1巻は、岩代の自然をはじめ原始・古代・中世・近世・近代・現代と全体の歴史がまとめられ、誰にでも読みやすい内容になっています」。

▶4巻は在庫切れ。1巻〜3巻は1冊5300円〜5400円で購入可能。連絡は本庁文化課 ☎0243-55-5154まで



十二年の期間が費やされました。同僚が役職に就くのを見て焦りも感じましたし、内心割り切れない思いもありました。しかし、出版記念パーティーで自分を任命した当時の町長から「松本君ご苦労さん。あんたではないとでぎながったな」と労いの声をかけられ、一瞬にしてわだかまりが消えたんです(笑)。

Q 岩代の魅力や未来は？

通史の最終章にも「二十一世紀への飛躍」として書かせていただきましたが、豊かな自然こそが岩代の魅力だと思えます。岩代の自然や人に惹かれ、市外から訪れる交流人口を増やすことが岩代の未来を開くための一つの鍵になると感じています。

個人的な抱負としては、難解とされる資料編2巻、3巻を興味の有人たちと一緒に読み解ける機会がもてたら嬉しいですが、かつて自分が町史編纂を通して得た知識や情報を一人でも多くのの人に受け継いでいただければ、これからの人生の大きな喜びになると感じています。

▼自宅の崖の上で栽培している蝦夷ごみ畑。「繁殖力も強く長期間採れるので岩代の特産物にしては？」と松本さん



集落支援員からのメッセージ

「竹の利活用について一緒に考えませんか？」
～自治会随時、募集中～

「少子高齢化社会の中で、農地・山林等の整備が行き届かない中、農地への侵蝕、降雪時の道路通行に支障をきたす竹が邪魔な存在になっています。そんな竹の利活用を調べた結果、

- ★竹あかりへの利用
- ★竹炭として利用
- ★竹チップ・粉末として利用

といった活用事例が浮かびあがってきました。他にも全国には竹ハウスの制作に取り組んでいる事例もあります。興味のある方は、下記までご連絡ください。

<岩代支所 集落支援員>
安斎・桑原・菅野まで
☎0243-65-2777

～岩代公民館主催の高齢者学級～

「竹炭と花炭でつくるアート」講習会で
集落支援員が講師を務めました



▲集落支援員が竹炭づくりの工程や活用法を説明

去る六月十四日、岩代公民館にて竹炭づくり実演のセミナーが開催され、集落支援員の二名が講師を務めました。当日のセミナー受講生は二十五名。「初めて炭づくりを見た」「昔、体験したことがあり懐かしい」「様々な声が寄せられていた。皆さんに関心をもっていただきました。」



◀竹炭と松ぼっくり、貝殻、木の実、ドライフラワーを飾りつけアート作品をつくる時間も、皆さん楽しい様子でした



▶竹を4時間程度火で焼いた後、一晚空気を遮断した状態で放置。翌日の朝に、竹炭を取り出しました

★タイムスケジュール★

- 10:00 集落支援員自己紹介
竹再利用・竹炭づくりの工程説明
- 10:20 竹炭づくり実演
(公民館裏庭にて)
- 11:00 作品づくり
- 11:45 講習会終了・松ぼっくり炭の取り出し
- 14:00 火入れ終了
～一晚、空気遮断～
- 翌10:00 竹炭取り出し



◀写真右が百花蜜、左がくりの蜂蜜。くりは最後にほんのりかな香ばしさが残り、独特な味わい



▲秤の上にビンを置いて内容量90グラムを計りながら瓶詰めします

創立50周年&今までありがとう
安達東高校特集④

蜂蜜「あいさつ坂」
ビン詰め見学にうかがいました

～蜂蜜メニュー～

<はるのそよかぜシリーズ>

- ★さくら ★りんご
- ★藤の花 ★くり
- ★百花蜜 (初夏はくり、その後はクローバーがメイン)

<あきの夕暮れシリーズ>

- ★百花蜜 (アレチウリがメイン)

※秋にはりんごジュースを蜜源とした「おにばばのみだ」も製造します!



▲畜産コース2年生の佐藤さん(右)と新藤さん(左)が案内してくれました

日下部善己さんの著書が
民報出版文化賞正賞
に輝きました!



第45回、福島民報出版文化賞の受賞作が決まり、百目木在住の日下部善己さん著『ふくしまの地域社会を活かす人びと～陸奥『塩松(しおのまつ)領石川分』の成立と展開～』(歴史春秋社発行、定価2,750円)が正賞に輝きました。「地域の歴史を次世代につなぎたい」という思いから半世紀以上の研究の論文や講演内容を再編したもの。「地域史研究の意義と楽しさを伝える一冊」として高く評価されました。日下部さん、おめでとうございます。